コラムを読み解く（中学・国語）

（　　）中学校（　　）年（　　）組　氏名（　　）

南風録

母が残した一軒家を片付けながら、小型ラジオがあちこち転がっているのに驚いた。1部屋1台はあるだろう。電池式なのだから、一つに絞って持ち運べばよかったのに▼日本でラジオ放送が始まったのは1925（大正14）年だ。3月22日にちょうど100年を迎える。その2年前に起きた関東大震災が契機になったという。新聞や雑誌が発行できなくなり、放送に期待する声が機運を高めた▼電池と受信機があれば音声が届く。ラジオはその強みから、災害との結びつきが深い。東日本大震災では各地で「臨時災害FM」が開局し、地域に密着した放送を続けた▼ニュースや生活情報を得るためだけではない。パーソナリティーの語りに慰められ、励まされるために耳を傾けた人も多いだろう。刺激的な映像があふれる中、聴き手にそっと寄り添うスタイルは変わらない。ラジオは「癒やしのメディア」として再び価値を高めている▼「あー、あー、聞こえますか」。最初のラジオ放送で流れたのはアナウンサーの呼びかけだったという。第一声から、聴く人に語りかけていたのだ▼がらんとした実家で過ごすうちに、ラジオをいくつも置いた意味が分かってきた。1人暮らしの空間を、誰かの声で満たそうとしていたのかもしれない。子の方は今、ラジオアプリを入れたスマホから芸人の深夜番組を流し、黙々と手を動かしている。

2025年3月17日付1面

【問1】　日本でラジオ放送が始まったのはいつですか。

【問2】　ラジオが災害との結びつきが深いのはなぜですか。

【問3】　ラジオが「癒やしのメディア」と言われるのはなぜですか。

【問4】筆者は、実家のあちこちに小型ラジオがあったのはなぜだと考えていますか。

【書きましょう】　「ラジオ」の活用方法について、あなたの考えを書きましょう。

＊習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

一軒家＝（いっ・けん・や）＝マンションなどの集合住宅（しゅう・ごう・じゅう・たく）ではなく、独立（どく・りつ）した家屋（か・おく）

驚（おどろ）いた

絞（しぼ）って

迎（むか）える

震災（しん・さい）

契機（けい・き）＝きっかけ、原因

機運（き・うん）＝ちょうどよい、めぐり合わせ。チャンス

慰（なぐさ）め

励（はげ）まされる

耳を傾（かたむ）ける＝聞きもらさないように、注意して聞く

刺激的（し・げき・てき）

聴（き）き手（て）＝聞く側の人。「聴く」は、話や音などを集中して聞くこと

寄（よ）り添（そ）う

癒（い）やし

誰（だれ）

黙々（もく・もく）

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布は禁止します　南日本新聞社